

① 高齢者福祉について

現在の高齢化時代は、医療技術の進歩、社会福祉の発展により今後ますます進行していくと考えられます。聞くところによると、2030年には60歳以上の5人に一人は認知症にかかるとの推測もあるようです。

高齢者の介護は、認知症が軽い時には伴侶、家族、周辺の協力で乗り切れると思いますが、認知度が進むとその範疇を超え、介護者に多大な影響を及ぼします。介護施設に入居できる方はまだ恵まれており、病院や介護施設に入居がかなわない方も多々いるようです。そのため要介護者の子供、孫といった若い家族が仕事を休職もしくは退職し、介護に専念せざるを得ない状況や、家族全体が経済的に困窮することにもなります。

2025年には、いわゆる団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になります。介護する方が高齢者になり、高齢者が高齢者を介護する老老介護や、介護する方が認知症になり、認知症が認知症を介護する認認介護という言葉も生まれてきているようです。このことにより様々な弊害も出てきております。人生の最終章で悲惨な終末期を送るのではなく、もう少し人間らしい最後の過ごし方が家族を含めてあると思います。

そこで、本町の介護の状況についてお尋ねいたします。

- (1) 本町の介護施設への入居待機人数は何人が質問します。
- (2) 介護施設の入居条件を質問します。
- (3) 自宅介護の実数はどの程度か質問します。
- (4) その中で、老老介護の数はいくらか質問します。
- (5) 高齢者虐待の発生件数はどの程度か質問します。
- (6) 今後の高齢者施設建設状況はどうか質問します。

② 産業振興について

2020年6月議会で私が一般質問を致しました、長与町内へのIT産業誘致について、その後の進展はどのようなになったのか、質問いたします。

この質問は、公明党長崎県議会議員川崎議員の提案で、本町内にある県立大学へ、他県企業数社が県立大学の優秀な生徒さんたちとの共同研究に来ており、数年間の研究期間が終了してしまうとそこで終わり戻ってしまうため、その後も本町に残り支社、支店を作り、経済活動をしていただくように誘致活動をお願いしていた内容でしたが、どのような進展になったか質問します。